

1月3日 成人式が開催されました

❖❖❖新成人の皆さんおめでとうございます❖❖❖

1月3日、すこやかセンター伊野で成人式が開催され、20歳を迎えた259名が成人の仲間入りをしました。式典に参加された新成人の方々は、久しぶりの再会を楽しみ、お互いの近況を話したり、写真を撮ったりと成人となった喜びを分かち合っていました。

式典では、杉本泰郷さんが、「社会人としての義務と責任を自覚するとともに、夢を実現させ自己完成に努めたい。いの町・高知県の発展のため、活力ある未来をつくるため、力を尽くしたい。」と謝辞を述べられました。また町からの記念品は、新成人を代表して石川舞香さんが受け取られました。

今年は、新成人の主張に3名（瀧石美薫さん、柿内沙弥香さん、大森優寛さん）の応募がありました。広報2月号では瀧石美薫さん、柿内沙弥香さんの主張を掲載します。

社会教育課



記念品受取の石川さん



祝辞を述べた杉本さん

私「こころ」道



瀧石 美薫

まず、始めに今、私たちが今日の成人式を無事に迎えられたことに対して感謝します。20年間、見守ってくださった両親、家族、学校の先生方、友人などに深く感謝を述べたいです。

私は現在、高知県を離れ関東の大学で法律系の勉強をしています。入学当初は、法律の専門用語が理解できず、毎日「六法全書」を持って通っていました。その中で興味を持てたのが「家族法」です。まだ深くは習っていませんが、少し内容に触れただけでも、非常に関心が持てました。今では「児童虐待」や「離婚相続」などでよく用いられる法です。その中でも特に「児童虐待」には、感情移入してし

まうほど、興味が持てました。私はもちろん、子どもがいるという経験をしたことがないので、理解できないところもあります。これは「人」として許せない行為だと思っています。しかし、よく新聞やテレビで報道されているように、年々児童虐待は増加しつつあります。また最近では、

幼児虐待も深刻な問題になっています。昨年の被害者数は319人と過去最多数となっています。加害者は、実母が95人と最も多く、とても信じられません。また、虐待とは表面化されにくく、事実が判明した時は、ほぼ死亡後だというケースがとても多いです。

私は、実際に経験したこともしなければ、身近で起こったことでもありません。私はそこが、高知県という地域団体の良さだと思っています。虐待をする親というのは、たいいてい社会から孤立してしまっている環境に順応できず、子どもに当たってしまうことが多いと聞いています。それは地域の人々の協力が欠けている証拠だと私は思っています。結果

を外側からだけ見て、加害者が一方的に悪いと言われますが、そうさせている「社会」に問題があるのです。私は将来、そういった問題を抱えた子どもや親の悩みを聞いた時、助けたりする事に就いて、これからの虐待問題に取り組んでいきたいです。

また私は、過去に部活で主将を務めた経験があります。その中で、よく意見の違いで問題が起こったりする場面を目にしました。そういった場合、どちらか一方の意見を聞くのではなく、両方の意見をよく聞くことが大切だと思います。問題を解決してきました。それを生かして、問題を抱えた人々を助け、その人たちと一緒に考えることのできる人になりたい、それが自分らしさを出せる道だと信じています。

今日、成人を迎えられたことは、親や家族、友人たちの助けがあったからです。今までのことを振り返ってみると、とても未熟だったと実感します。そしてこれから、自分を見つめる必要が今ままで